

発表の様子



【四国新聞掲載記事】

「人口シェア」で活性化 琴平で四国サミット

全国の事業者が意見交換



記念撮影する四国シェアサミットの参加者
＝琴平町、町公会堂

個人や企業が持つ物や技術、場所などを共有する「シェアリングエコノミー」をテーマにした「四国シェアサミット2026」が12日、琴平町の町公会堂などで開かれた。全国のシェアサービスマスターや関係者ら約200人が参加。関係人口や2地域居住など「人口のシェア」をテーマに意見を交わした。

地元の企業や有志らで組織する実行委が、シェアリングエコノミーについて広く知ってもらおうと企画した。同町での開催は23年に続いて2回目。

メインセッションには、琴平町で職住一体型施設を

運営している「琴平バス」（同町）をはじめ、人材会社「パソナジョブハブ」（東京）の担当者ら6人が登壇した。

ある登壇者は、10年後の社会は仕事や教育、結婚の在り方が大きく変わると指摘。「定住しない働き方が広がり、特技を生かして日本全体で困り事を助け合う動きが出るだろう。教育についてもオンライン化が進むのではないかと展望を示した。さらに大規模災害が頻発し、インフレが進む中で「都会と地方の2地域居住は生存戦略の一つになる」といった意見も出た。

寄付・寄贈

安全な観音寺市へ
青バト用の軽バン
久保電機

電気設備を中心に各種設備工事を手がける久保電機（観音寺市）が、観音寺市に公用車用の軽バン1台を、市は表



者から化しているとの話を聞いた。

冒頭の基調講演では、シェアリングエコノミー協会の石山アンジュ代表理事が登壇し、公助を共助で補完する重要性などを訴え、町内2カ所で分科会もあり、表現活動や教育・探究などをテーマに語り合った。

山口県下関市でまちづくり事業に取り組む瀬川康弘さん（40）は「人口減少などの課題は全国共通で、同じ志を持つ人がつながるのが大切。きょう得られたアイデアを地元で生かしたい」と振り返った。

【日経新聞掲載記事】

香川・琴平で「四国シェアサミット」

共助・共有・共創による持続可能な社会の実現を目指す「四国シェアサミット」が12日、香川県琴平町で開かれた。シェアリングエコノミー協会（東京・千代田）の石山アンジ（代表理事）が「人口減少で「人口が減少し経済が不安定な中で、全国のリソースやヒト・モノ・カネを分散して流動させることが令和の日本のあり方」と話した。

石山氏は香川県中津市から地方分限社会へ転換する必要性を強調した。「世界が次のモデルを確立しているが、日本こそ其のリーダーシップを振るべき」とも訴えた。

講演後に開いたメインセッションには石山氏のほか琴平町の片岡義孝町長や琴平バス（同町）の橋本泰一社長らが参加した。会場に集まった約100人の聴衆の前で関係人口の輩出や二輪船居住の推進などをテーマに議論を交わした。

同町の片岡町長は「人口が減っても生活できるようにするのが行政の使命。公助の時代から協で支え合う時代になっている」と話した。

【高知新聞掲載記事】

**関係人口と地域活性考える
香川で200人がサミット**

【高知】3月12日、香川県琴平町で関係人口に関する「四国シェアサミット」が開かれた。約200人が参加し、関係人口の活用や地域活性化について議論を交わした。会場には関係人口の活用や地域活性化について議論を交わした。

関係人口に関するサミットで登壇した谷口あささん（香川県琴平町）

【高知】関係人口に関するサミットで登壇した谷口あささん（香川県琴平町）

関係人口に関するサミットで登壇した谷口あささん（香川県琴平町）

関係人口に関するサミットで登壇した谷口あささん（香川県琴平町）

【毎日新聞掲載記事】

2026.9.16 午後 4:13 >
2026年(令和8年)9月16日(水)

**「人口のシェア」
200人参加し討論**

香川でサミット

個人や企業が持つ物や技術、場所などを共有する「シェアリングエコノミー」をテーマにした「四国シェアサミット2026」が12日、香川県琴平町の町公会堂などで開かれた。全国のシェアサミット関係者や関係人口の約200人が参加し、関係人口や地域居住など「人口のシェア」をテーマに意見を交わした。

地元の企業や有志らが組織する実行委が、シェアリングエコノミーについて広く知ってもらうと企画した。同町での開催は23年に続いて2回目。

メインセッションには、琴平町で職住一体

記念撮影する四国シェアサミットの参加者
＝香川県琴平町で

型施設を運営している「琴平バス」(同町)をはじめ人材会社「パソナジョブハブ」(東京)の担当者ら6人が登壇した。

ある登壇者は、10年後の社会は仕事や教育、結婚の在り方が大きく変わると指摘。一定住まない働き方が広がり、特技を生かして日本全体で困り事を助け合う動きが出るだろう。教育についてもオンライン化が進むのではないかと展望を示した。さらに大規模災害が頻発し、インフラが進む中で「都会と地方の2地域居住は生存戦略の一つになる」といった意見も出た。

冒頭の基調講演では、シェアリングエコノミー協会の石山アンジ代表理事が登壇し、公助を共助で補完する重要性などを訴え、町内2カ所で分科会もあり、表現活動や教育・探究などをテーマに語り合った。